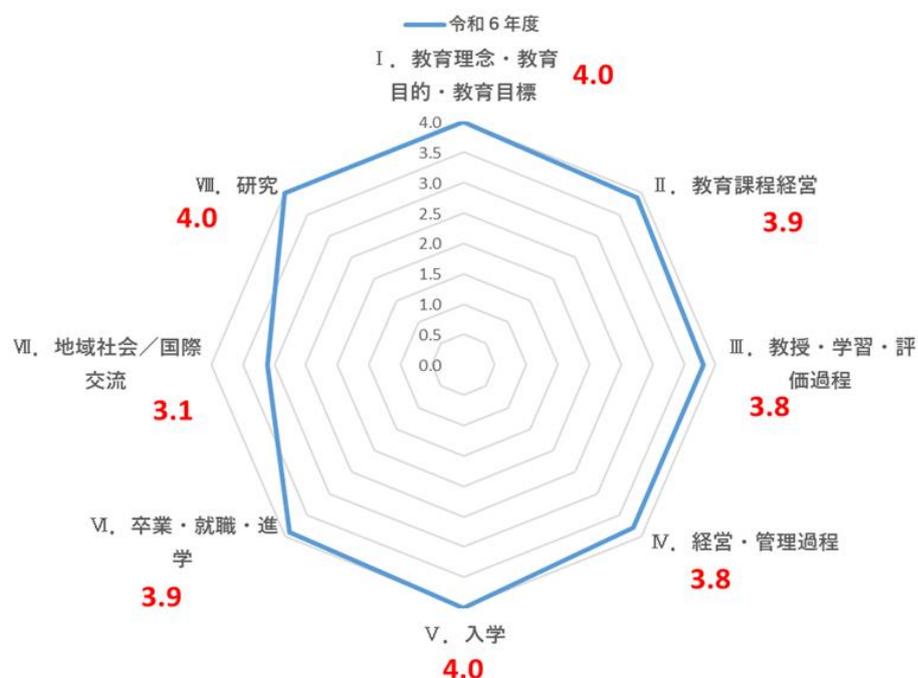


## 令和6年度 自己評価自己点検結果

	令和6年度
I. 教育理念・教育目的・教育目標	4.0
II. 教育課程経営	3.9
III. 教授・学習・評価過程	3.8
IV. 経営・管理過程	3.8
V. 入学	4.0
VI. 卒業・就職・進学	3.9
VII. 地域社会／国際交流	3.1
VIII. 研究	4.0
平均 (全体)	3.8

【評価基準】 4：当てはまる 3：ほぼ当てはまる 2：やや当てはまる 1：当てはまらない



### 評価項目別 自己評価と課題

I. 教育理念・教育目的・教育目標
<p>当校の教育理念は、看護専門職を育成する看護師養成所として、適切な理念を掲げている。また教育理念の基本精神として「智慧」「創造」「誠実」の3つを挙げ、簡潔で学生にとってもわかりやすい言葉を用いている。この基本精神は学生便覧、実習要項、ホームページに掲載し、在学生には常に意識してもらえるように学校玄関ロビーにも掲げ、学生の学習活動、教職員の教育活動を導くものになっている。</p> <p>教育目的は、独立行政法人国立病院機構病院的の附属養成所としての役割として、国立病院機構への貢献を明示している。さらに国立病院機構のみでなく、社会への貢献も明示しており本校の特徴を示すものとなっている。</p> <p>概況書には、教育理念とともに、看護における基本概念、学習・教育観と学生観を示しており、教育理念における具体的な教育や学生に対する考え方を明記している。</p> <p>教育目標は、教育理念・教育目的を具体的に示しており、学年別目標及び指導指針につながっているため、学生にどのように教育を実践していくのか、教職員は共通認識でき、学生にとっても教育がどのように実践されるのか受け止めた上</p>

で、学習活動をおこなうことができている。

課題としては、評価項目 5-2 の教育目的・教育目標の評価に対する考え方の明文化である。現在実施していること、明確な評価方法になっているかについて検討し、教育目的・教育目標の卒業時の達成状況の評価について、考え方を明記していく。また、カリキュラム改正後 3 年が経過し、全学年が新カリキュラムとなったことから、シラバスの見直しを見据えた学習内容の分析・検討を行い、教育理念・教育目的・教育方針との一貫性についても確認が必要である。

## II. 教育課程経営

教育課程編成の考え方とその具体的な構成、科目・単元構成について、シラバス等を用いて学生に理解できるように示しているが、その考え方や根拠についてはより明確な記述が必要である。また、運用にあたって重要となる教育計画における科目構成・配列についてもその関連性と根拠が明確になるよう整理し、明文化していくことが課題である。その他、最近の学生および保護者の傾向をふまえ、評価結果の活用における倫理規定の作成は、喫緊の課題と考える。

### 〈学生の看護実践体験の保障〉

臨地実習においては、当校の教育に対する考え方を明示し、実習指導者と教員の役割分担を明確にし、学生の学習保障が得られるよう、協働して実習指導を実施している。臨地実習における倫理教育として、ケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示し、その考え方に基づいて学生を教育している。特に、受け持ち患者ごとに看護学実習説明書を使用して患者または家族に説明し、実習の同意を得て実習を行うこととしている。

臨地実習施設は、学生の学習が効果的に実施できるよう、学習環境の調整、物品の整備、実習指導者の配置に力を入れており、臨地実習施設と学校が連携しながら、学生が看護について学ぶことができるよう教育している。実習記録がリフレクションノートに変更し 2 年目になり、学生なりに考えていることを知り、指導方法を考える場面も増えてきた。今年度は、基礎看護学実習 I にパフォーマンス評価を導入し、学生が主体的に学習する力を強化できるようにしている。また、基礎看護学実習 II と領域別実習に実践活動外学習を導入し、学生の看護実践力の向上につながるように整えた。臨地実習施設では、戸惑いが見られるため、教員の情報共有を密に行っていく必要がある。学生に対する安全教育については、各学年で実習前やインシデント発生時に実施しており、3 年間でどのように段階的に教育をしていくのか、安全教育を振り返り、改善しながら取り組み、その結果を臨床と共有していくことが課題である。今後は、臨地実習に関する倫理規定の明記、患者の権利を守るための内容の明記について検討していくことが課題である。

## III. 教授・学習・評価過程

新カリキュラムとなって 3 年目であり、全体のカリキュラム評価が必要である。特に新設科目である「臨床判断基礎演習」「地域・在宅看護論」と、看護学概論を除く各看護学の概論は時間数が減となっていることから講義時間と学習内容の評価とその結果に基づき、検討が必要である。授業内容の重複や整合性等は、成人老年看護学領域で器官系統別となっており、成人や老年の発達課題や看護の特徴に合わせた学習内容のマトリックスを作成し見直しが必要な部分について検討している。また、卒業時の到達目標をふまえた看護技術の習得については、実習での経験状況を踏まえて学内演習等の見直しも必要である。授業の展開過程においては、学生の探求的学びを導く教授方法として、反転授業の推進を目標としているが、反転授業については現在検討中である。看護技術の演習科目については、演習指導案を共有しながら協力体制をとり、基礎看護技術の教授に取り組んでいるが、動画の導入など自己学習への支援について課題があり、今後も継続して取り組んでいく。

## IV. 経営・管理過程

### 〈財政基盤〉

病院経営運営会議、管理診療会議での内容を教員へ適宜周知しているがすべての教職員が理解しているとは言い難い状況である。教員個々のレベルでの理解が深まるよう、情報共有の方法、工夫が必要と考える。また教職員から発出される財政、経営に関する意見は少ないことから、財政基盤等について理解し、経営・管理に携わる者としての自覚を持ち、積極的に意見できるような環境づくりが必要である。

### 〈施設設備の整備〉

今年度初、アリーナの防火設備の故障が発生したが、速やかに交換できた。アリーナの水銀灯の LED 化につい

て計画的に予算だてし、取り組んでいく必要がある。その他についても耐用年数を考慮した上で、必要性を鑑み、戦略的に設備整備に取り組んでいく。

今年度は年初に能登半島地震、8月に南海トラフ臨時情報の発表等、自然災害への備えを自覚する年となった。防火・防災訓練は1回/年以上実施しているが、想定できる訓練内容になっているため、訓練内容を検討して火災および自然災害に対する体制を強化する必要がある。また、母体病院のBCPに学校に関する内容の記載がなく、発災時の学生の備蓄がないことから、急遽学生自身に備蓄を準備し、学校・学生寮にて分割して保管することとした。この点も踏まえながら学校単体としての防災対策の整備に取り組んでいく。

#### 〈養成所に関する情報提供〉

今年度入学式後保護者説明会は実施した。また定期的に学習状況を伝える文書を発出しているものの、学校のホームページの適時の更新ができていない。行事等の開催時にタイムレスな情報発信ができる体制を整備する必要がある。このことは、保護者に向けての情報発信の機会となると同時に、学生募集につながる重要な取り組みと考え、早急に対応していく。

アリーナや教室の使用については、講義や学校行事等で支障がないことを確認し、病院関係者、保育所、同窓会に使用を許可しているものの、広く地域に向けた活用の促進はできていない。今後、こういった活用に向けた体制作りが課題である。

### V. 入学

入学試験に関する規程にそって、本校の理念である「智慧」「創造」「誠実」に基づき国立病院機構及び社会に貢献できる人材を育成するという教育目的を実現するために、入学者選抜方法や評価について、公平性及び妥当性を確保・維持している。県内の18歳人口の減少や大学志向の影響もあり、一般入試の受験生が減少傾向にあることもふまえ、特別推薦入学試験を導入し、入学生の質と数の確保を図っている。広報活動としては、業者主催の進学相談会、高校訪問、オープンカレッジを実施している。オープンカレッジでは、保護者同伴での参加も多く、入学希望者だけでなく保護者へのアピールも重要となる。また、開催月により参加人数にばらつきがあったため、開催時期を含め、企画運営について検討していくことが課題である。

### VI. 卒業・就職・進学

看護実践力の育成に関連する看護技術の到達度は、すべての実習終了後に看護技術経験録の集計結果に基づいて確認している。国家試験対策における低学力者の指導については、学習状況を把握しながら学生に合わせた指導が必要になるため、副学校長、教育主事に模試の結果や学習状況を報告し、相談しながら進めることが重要である。就職や進学への支援については、過去の実績を活用しながら関わっている。

### VII. 地域社会／国際交流

#### 〈地域社会〉

地域の健康や医療・看護、看護教育に対するニーズを把握するために、母体病院の行事や学校行事、ボランティア活動、高校訪問や進路相談会を通して、当校から意図的に関わるよう取り組んでいる。また、地域の人材を活用し、看護技術教育、臨地実習、クラブ活動など、教育活動を充実させるよう取り組んでいる。これらの取り組みによって、地域社会と当校の交流がはかれるよう努力している。しかし、ボランティア活動は学生主体での取り組みには至っていないことから、新たな対策として近隣関連施設との情報交換および連携システムの構築を行い、学生への情報提供につなげていく。

#### 〈国際交流〉

国際的視野を広げるためのカリキュラムの構築を実施している。当校の特徴としては、母体病院が開催しているアジア国際小児医療学会（AMCCH）への学生参加は今年度行えたが、感染症流行時期のため限られた時間内での参加となった。国際感覚を身につける機会を今後さらに創造していく必要がある。

## Ⅷ. 研究

令和6年度の運営目標に研究活動の推進、研究授業による相互研鑽を掲げて意識づけを行った結果、目標値を上回る取組結果となった。また教員は、中国四国地区教員研究会を主体的に運営し、副学校長・教育主事協議会が支援し、研究活動について助言する体制を整えている。専門領域の選択は希望のもと決定し、研究会への参加は出張扱いとし、研究のみに取り組むことができる時間の確保ができ、看護師養成所助成金(研究費)も効率よく活用できる体制となっており、研究活動やそれに伴う学習のための人的・物的な環境の保障ができています。

今後の課題は勤務時間内での研究活動が十分に行えていない現状があるため、教員間で協力し合い、調整の上、勤務時間内での研究活動の時間確保ができる職場風土の醸成を目指していく。また研究実践能力の向上にむけて、今後も支援を継続して行う。